

《教育長メッセージ 第27号》

『いきもの』

子どもの頃、虫やへび、草花や樹木は、イタズラ小僧の悪意のない殺生でたくさん殺したり、枯らしたりしました。みなさんもそうだったでしょうが、子どもというのは案外、残酷です。

人間が生きるということは、物言わない命をいただくということですから、子どもの殺生は、神様も勘定に入れていると思うのですが。



小学校4年生の頃でした。谷間の奥の杉林の中で遊んでいる時のことでした。杉の木の根元にちょろちょろと動き回るネズミを見つけました。

とっさに友だちと、入り込んだ穴をふさぎ、追い込みました。木の根元を掘り進め、ついに、小さなネズミを捕まえました。

左手の手のひらで包むようにネズミを握りました。必死に逃げ出そうと暴れるので、逃げられないようにと強く握りました。

友だちに見せびらかしているうちに、左手の力が失われるような感じがしました。

ビクッとして、とっさに手を開きました。ネズミは動きませんでした。変なぬくもりが手のひらに残りました。

「あっ、文康、ネズミ殺した。」と友だちが囁し立てました。

私には、友だちの囁し立てる声以上に、自分の手の中で命が途絶えたという罪悪感がありました。

その後、友だちの手前、行動は相変わらずのイタズラ小僧のままでしたが、殺生することにためらいがありました。左手には、思い出すと、今でも、何とも言えない感覚が甦ります。

「いきもののいのちをとらば いきものはかなしかるらん」室生犀星

私は、志津川の海や山、風や音や匂いに、虫や動物や草花に、時間をかけて命の尊さを教えてもらいました。

今回は、『卒業式』についてです。